

林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

林を愛し、「共に学び、共に考え、共に生きる」心豊かで健康な子を育

【本校の課題】

- 全学年、男女ともに、スポーツテストのほとんどの種目で、県・市平均を下回っている。
- 運動に対する好き嫌いや運動能力は、二極化の傾向にある。また、上位の児童が少ない。
- 比較的素直で、言われたことをやろうとする児童は多いが、自ら考えて、活動する児童が少ない。また、持続性に欠ける。

【現状】

休み時間などは、外に出て元気に遊ぶ児童の姿が見られるが、近年の児童数増加もあり、運動場の広さが十分でない。そのために、思い切って遊ぶということが難しい。体育館やプールなども同様に児童数に対して十分な広さがあるとは言えない。

体育の授業においては、運動の好きな児童とそうでない児童の意欲の差が大きく、同じ学習内容でも運動量の差が顕著である。放課後の陸上・水泳クラブなどは希望者が多いが、高い意識をもって取り組んでいる児童は限られている。

【取り組み】

体力づくりの時間の設定

朝の活動に体力づくりの時間を設定することで、全校生が体力を高める運動に触れる機会を作る。その際、低・中・高学年で曜日ごとに分けて、体力づくりの時間を行うことで、場所や時間を確保する。

また、縄跳びや遊具・鉄棒遊び、おにごっこなど、体育教員が中心となって計画的に内容を設定していくことで様々な運動経験ができるようにする。さらに、検定表を作成したり、賞状を渡したりすることで児童の意欲が続くようにしたり、達成感が味わえるようにしたりする。

なかよし班（縦割り活動）における長縄

体育委員会が中心となり、縦割り活動における長縄を企画していく。グループごとに回数を競い合うことにより、楽しんで活動できるようにする。また、上級生は下級生に教え、下級生は上級生の上手なところを吸収すると

計画的なクラスマッチの実施

縄跳びだけでなく、いろいろな種目に、挑戦できるように、1学期に運動会、水泳、2学期に球技、3学期に縄跳びのクラスマッチを行う。

【目標】

- 運動経験を増やすことで、体力の向上を目指し、さらにスポーツテストの平均の向上を図る。
- 自らが進んで、運動しようとする運動に対する意欲をもつ児童を増やす。
- 秋から冬にかけて、縄跳びを中心に取り組むことで、敏捷性や持久力を高める。